

学部学生に関する事項

1. 大学での学習について
2. 文学部賞について
3. 専修について
4. 卒業論文について
5. 担任・指導教員制度について
6. 卒業要件単位一覧・チェックシート

～＊～

以下については、文学部HPに掲載していますのでご覧ください。

- ◎ 文学部 教育目標
- ◎ 文学部 ディプロマポリシー
- ◎ 文学部 カリキュラムポリシー

学部学生に関する事項

1. 大学での学習について

(1) 卒業に必要な単位

学部の課程を卒業するためには、4年以上在学し、130単位を修得する必要があります。教員免許資格取得には、上記の卒業に必要な単位とは別に、単位を修得する必要があります。

(2) 単位と成績

大学での学習は、「単位」と「成績」で結果が示されます。

単位は次のように規定されています。

- ・ 単位の付与は1単位あたり45時間の学習を必要となります。この45時間は、大学で行う授業と自宅学習との和です。
- ・ セメスター科目は15回(週)授業で講義演習科目は2単位、外国語科目及び実習科目は1単位となっていますが、授業時間は1時限分(授業時間90分を2時間とみなす)を1学期間学習しても30時間しかないので、講義演習科目は、授業30時間に加えて自宅学習60時間が必要であり、外国語科目は、授業30時間に加えて自宅学習15時間が必要です。つまり1回の授業につき、講義演習科目では4時間、外国語科目及び実習科目では1時間の自宅学習が前提になるということです。

成績は、各授業科目において実施される試験等によって決まります。100点を満点として、S(90点以上)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、F(60点未満)の各評価が与えられます。S・A・B・Cは合格で単位が与えられますが、Fは不合格であり単位は与えられません。

(3) グレード・ポイント・アベレージ制について

大阪大学では、学修の状況及び成果を示す指標としてのGPAを算出することにより、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に資するとともに、教育の国際化を促進することを目的としています。

・ 制度概要

グレード・ポイント・アベレージ（G P A）制度とは、欧米の大学で一般的な成績評価方法で、学生一人ひとりの履修科目の成績評価をグレード・ポイント（G P）に置きかえた平均を数値により表すものです。

成績の評価及び各評価に与えられるG Pは、以下のとおり定めています。

成績の 評価	S (90 点以上)	A (80 点以上 90 点未満)	B (70 点以上 80 点未満)	C (60 点以上 70 点未満)	F (60 点未満)
G P	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

・ 活用方法

クラス担任・指導教員等による修学指導に利用します。また、学生自身の履修計画の作成に活用されることを大いに期待しています。

・ G P A 計算対象外科目について

文学部において、「文学部共通概説」（2 単位）と「卒業論文」（10 単位）は、G P A の計算対象外科目とします。

（４）単位修得の進め方

【注意】

「卒業要件単位一覧」は、入学した年度によって異なります。

必ず入学した年度に適用される「卒業要件単位一覧」を確認してください。

卒業に必要な 130 単位には、卒業論文 10 単位が含まれています。したがって開講されている授業科目で修得する必要があるのは、120 単位となります。

卒業論文作成（10 単位・450 時間の学習）のことを考え、3 年次終了時まで、少なくとも 100 単位程度の修得を目指して、1 年次より計画的に履修してください。目安として、一年間で 30～40 単位を修得する必要があります。

全学共通教育科目（※）は、できる限り 3 年次終了時までに履修を終えるようにしてください。なお、文学部で開講する専門教育科目は、専修に分属後の 2 年次から履修することができます。

※全学共通教育科目の履修方法・時間割等については、「全学共通教育科目履修の手引き」の冊子、及び以下 URL から文学部の頁に入り、「全学共通教育科目 履修の手引＜文学部＞」により確認してください。

全学教育推進機構 HP： <http://www.celas.osaka-u.ac.jp/fresher/letters/>

2. 文学部賞について

文学部の学生を対象とし、文学部の専門教育において優秀な学業成績を修めた学生を卒業時に表彰するために文学部賞を設けています。文学部賞受賞者には、文学部長より賞状及び副賞が授与されます。

3. 専修について

(1) 専修ガイダンスについて

1年次生は、1セメスターに開講される文学部専門教育科目「文学部共通概説」を受講したうえで、11月に行われる専修ガイダンスに必ず出席し、所定の期間内に専修希望を提出しなければなりません。

令和5年度専修ガイダンス実施予定日： 2023年11月6日（月）

（実施時間及び実施場所については、おって連絡しますので、掲示に注意してください。また、上記日程についても変更する場合があります。）

(2) 専修決定について

専修の分属は、3セメスターの始めから実施します。

専修希望を提出していない学生は、3セメスターから開講される専門教育科目（「文学部共通概説」を除く）を履修することはできません。

専修の決定は専修希望に基づき行われます。

各専修の学生基準数は、以下のとおりです。各専修の希望者数が学生基準数を超えた場合は、専修決定試験を実施して専修を決定します。

専 修	基準数	専 修	基準数
哲学・思想文化学	20名	中国文学	10名
倫理学	10名	英米文学・英語学	30名
中国哲学	10名	ドイツ文学	10名
インド哲学	10名	フランス文学	10名
日本史学	20名	美学・文芸学	20名
東洋史学	20名	美術史学	20名
西洋史学	20名	音楽学・演劇学	20名
考古学	10名	日本学	20名
日本文学・国語学	30名	人文地理学	10名
比較文学	10名	日本語学	30名

(3) 専修変更について

① 専修変更の出願手続き

専修変更希望者から「専修変更願」により願い出たものを協議し決定します。

新専修を卒業するためには、専修変更時のセメスターを含めずに4セメスター以上在学しなければならないため、専修変更の願い出は、原則として3セメスター開始時から4セメスター終了時までに行ってください。

専修変更を出願できるのは、各セメスターに一度とします。

また、転部及び学士入学の出願から合否判定までの期間（概ね1月中旬～3月中旬）には、専修変更の出願を一時的に停止することがあります。

② 出願対象

専修変更の出願対象とできるのは、当該学生が専修希望を提出した年度、もしくはそれ以降の年度の専修とします。ただし、各年度の専修のうち、出願時において基準数を充足しているものは専修変更の出願対象とすることはできません。なお、基準数を一度充足した専修に空きが生じた場合には、出願対象として掲示にてお知らせします。

（４）専修取消について

専修に分属している学生が、前記②に定める専修変更の出願対象とはならない専修に分属を希望する場合、専修取消を出願し、これを学部教授会が協議し決定すれば、現在の専修分属を取り消し、改めて専修希望を提出することができます。

専修取消を出願できるのは各年度に1回とし、出願時期は秋～冬学期に限ります。専修取消を出願した年度に修得できる専門教育科目の単位数は20単位までとなります。新専修への分属は、新年度の始めからとし、分属後の本学部における修業年限は3年とします。

4. 卒業論文について

(1) 卒業論文の提出について

本学部4年次に在学している学生は、秋～冬学期の所定の期間に卒業論文を提出することができます。

(2) 卒業論文の提出について

卒業予定者は、あらかじめ当該専修指導教員の承認を得て卒業論文題目を定めておき、期間内に卒業論文題目、卒業論文を教務係に提出しなければなりません。提出方法については別途掲示します。※期限までに提出できない論文題目及び論文は受理しません。また、提出予定年度の秋～冬学期に休学している学生は、卒業論文題目及び論文の提出ができません。

卒業論文の体裁及び枚数等については、必ず各専修の指導教員から指示を受けてください。

論文を提出できない者は、論文提出期間内に「論文提出延期願」を提出してください。また、提出した論文を取り下げの場合には、提出締め切り日から10日以内に「卒業論文取り下げ願」を提出してください。

(3) 卒業論文の評価基準について

文学部における卒業論文の評価基準が別に定められています。p.60「大阪大学文学部における卒業論文の評価基準」を参照してください。

5. 担任・指導教員制度について

学習・生活上の相談窓口として、各専修における担任（2・3年次）及び指導教員（4年次）がその任にあたります。担任教員・指導教員の変更は、学生の希望により申し出ることができますので、所属専修または教育支援室にご相談ください。

6. 卒業要件単位一覧・チェックシート

卒業要件単位一覧

大区分	科目区分	卒業必要 単位数	履修方法等
全学 共通教育科目	教養教育系科目	2	学問への扉の授業科目の中から2単位修得
	教養教育系科目	6	基盤教養教育科目の中から6単位修得 *6単位を超えて修得した場合は、2単位まで自由選択枠に充当できます。
	情報教育科目	2	「情報社会基礎」（2単位）を必修。
	健康・スポーツ教育科目	2	「スポーツ実習A」（1単位）を必修とし、さらに「スポーツ科学」（1単位）、「健康科学実習A」（1単位）、「健康科学」（1単位）のいずれかを選択履修し計2単位修得。
	アドヴァンスト・セミナー	1	*2単位まで自由選択枠に充当できます。
	国際性涵養教育系科目	8	英語の授業科目の中から修得。 「第1外国語」として、総合英語のうち本学部が指定する授業科目から選択履修し6単位、実践英語のうち本学部が指定する授業科目から選択履修し2単位を修得。 ただし、英語を母語とする外国人留学生及び特別な理由のある者については、第2外国語として設定されているドイツ語、フランス語、ロシア語及び中国語のうちから1外国語を選択し、第1外国語として履修することができます。その場合、グローバル理解科目から当該外国語と関連する科目を8単位修得。
	第2外国語	4	「第2外国語」として、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、スペイン語及びイタリア語のうち1外国語を選択。なお、第1外国語と同じ外国語を選択することはできません。ただし、外国人留学生は、1外国語として日本語を選択することができます。 *上級クラスで修得した単位は、2単位まで自由選択枠に充当できます。
	選択外国語	4	「選択外国語」の授業科目の中から4単位修得又は「第2外国語」として開講されているドイツ語、フランス語、ロシア語及び中国語の中から（「第2外国語」として選択している外国語を除く。）1外国語を選択し4単位修得。
	グローバル理解	8	グローバル理解のうち、本学部が指定する授業科目から選択履修し、8単位を修得。 ただし、外国人留学生で第2外国語の日本語を選択履修した場合は、「多文化コミュニケーション」8単位を修得すること。 *「特別外国語」は2単位まで自由選択枠に充当できます。
	小計	36	
	高度教養教育科目	2	以下の科目から2年次秋学期以降に選択履修し、2単位修得 ①「人文学概説」 ②「高度教養教育科目一覧表」に掲載されている高度教養教育科目 *2単位を超えて修得した場合は、自由選択枠に充当されます。
文学部 や他学部等 で開講する科目	高度国際性涵養教育科目	4	以下の科目から2年次秋学期以降に選択履修し、4単位修得 ①所属する専修以外の講義科目（該当する科目は、開講科目一覧表で確認してください。） ②「高度国際性涵養教育科目一覧表」に掲載されている高度国際性涵養教育科目 *4単位を超えて修得した場合は、①は専門教育系科目の選択科目の単位に、②は自由選択枠にそれぞれ充当されます。
	文学部共通概説	2	
	専修の講義・演習	28	所属する専修の講義及び演習から修得。
	外国語科目	2	英米文学・英語学、ドイツ文学又はフランス文学専修に所属する学生は、外国語科目2単位を含まなければなりません。 なお、当該専修の外国語以外の外国語科目を履修するものとし、初級科目を選択する場合は、共通教育系科目で履修した外国語以外の外国語科目を選択し修得してください。
	選択科目	38	文学部共通概説を除く文学部授業科目の中から38単位以上修得。 なお、「専修の講義・演習」の卒業に必要な単位（28単位）を超えて修得した単位についても選択科目の単位となります。 また、選択科目については下記の「選択科目についての補足」のとおり選択科目として認められることがあります。 <u>（注）必ず認められるわけではありません。</u> *38単位を超えて修得した場合は、自由選択枠に充当されます。
	卒業論文	10	
自由選択枠	小計	84	
	自由選択枠	10	「自由選択枠」として開講している科目は、ありません。 自由選択枠に算入できる以下の科目から、10単位を修得してください。 (1) 基盤教養教育科目の中で、6単位を超えて修得した単位（2単位まで） (2) アドヴァンスト・セミナー（2単位まで） (3) マルチリンガル教育科目の第2外国語の上級クラスで修得した単位（2単位まで） (4) グローバル理解の「特別外国語」（2単位まで） (5) 高度教養教育科目で、2単位を超えて修得した単位 (6) 専門教育系科目の選択科目の中で、38単位を超えて修得した単位 (7) 高度国際性涵養教育科目の②で、4単位を超えて修得した単位
	小計	10	
合計		130	

★
演習は文学部で開講する科目の中から20単位以上修得してください。

専門教育系科目の選択科目についての補足

在学中に、他の大学（専門職大学を含む）若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学で修得した単位は、24単位まで専門教育系科目の選択科目として認められることがあります。なお、必ず認められるわけではありませんので注意してください。

卒業要件単位チェックシート

大区分		科目区分		卒業に必要な 単位数	前年度までの 修得単位	今年度春～夏学期 までの修得単位	今年度秋～冬学期 までの修得単位	メモ			
全学共通教育科目	教養教育科目	学問への扉		2							
		基礎 教育 科目 教 育 目 養	人文科学系科目	6							
			社会科学系科目								
			自然科学系科目								
			総合型科目								
		情報教育科目		2							
		健康・スポーツ教育科目		2							
	アドヴァンスト・セミナー		—								
	国際性 涵養 教育 系 科 目	マルチリンガル教育科目	第1 外国語	総合英語	8						
				実践英語							
			第2外国語		4						
			選択外国語		4						
			グローバル理解		8						
小計				36							
文学部や他学部等で開講する科目	教養教育系科目	高度教養教育科目		2							
		高度国際性涵養教育科目		4							
	専門教育系科目	必修科目	文学部共通概説		2						
			専修の講義・演習	外国語科目	28	2	20 （演習科目）				
					選択科目			38			
			卒業論文		10						
小計				84							
自由選択枠				10							
小計				10							
合計				130							

卒業要件単位一覧の補足説明

【1. カリキュラムについて】

カリキュラムは、「教養教育」、「専門教育」、「国際性涵養教育」の3つの柱からなります。学生のみなさんは、p. 33の卒業要件単位一覧と以下の補足説明を確認の上で、卒業に必要な130単位を修得してください。

卒業要件単位一覧では、以下のとおり色分けしています。

- 教養教育系科目・・・黄
- 専門教育系科目・・・青
- 国際性涵養教育系科目・・・緑

【2. 授業の開講について】

授業は大きく分けて、①全学教育推進機構（共通教育）で開講する科目と、②文学部や他学部等で開講する科目があります。

【3. 全学教育推進機構（共通教育）で開講する科目について】

入学した年度の「全学共通教育科目 履修の手引」を参照してください。

【4. 文学部や他学部等で開講する科目について】

以下のとおり単位を修得してください。

1) 高度教養教育科目（2単位）

- 2年次秋学期以降に履修してください。2年次夏学期以前には履修できません。
- 文学部で開講する「人文学概説」、または他学部等で開講する高度教養教育科目のいずれかから、単位を修得してください。
- 2単位を超えて修得した場合は、自由選択枠に充当されます（自由選択枠については後述）。

2) 高度国際性涵養教育科目 (4 単位)

- 2 年次秋学期以降に履修してください。 2 年次夏学期以前には履修できません。
- 文学部で開講する講義科目* (①)、または他学部等で開講する高度国際性涵養教育科目 (②) のいずれかから、単位を修得してください。
- 4 単位を超えて修得した場合、①は専門教育系科目の選択科目に、②は自由選択枠にそれぞれ充当されます。
- 例 1 : ①で 8 単位修得 → 4 単位を専門教育系科目の選択科目とできる。
- 例 2 : ②で 6 単位修得 → 2 単位を自由選択枠に充当できる。

*・・・ここで指す講義科目とは、科目名の末尾に“講義”と記載されている科目です (例：〇〇学講義)。対象となる科目については、開講科目一覧表で確認してください。

3) 専門教育科目

- 必修科目として、「専修の講義・演習」を、28 単位修得してください。28 単位を超えて修得した場合は、選択科目に充当されます。
- 例：専修の講義・演習を 30 単位修得した → 2 単位は選択科目とできる。
- (転部者への補足)
- 転部者は『文学部共通概説』を修得する必要はありませんが必修科目が 30 単位必要です。
- 選択科目として、『文学部共通概説』を除く文学部授業科目の中から 38 単位以上修得してください。他専修の講義・演習の単位を修得しても構いません。38 単位を超えて修得した場合は、自由選択枠に充当されます (自由選択枠については後述)。
- 『文学部共通概説』および『卒業論文』については、学生便覧に記載のとおり履修してください。
- 演習科目を 20 単位以上修得してください。

4) 自由選択枠 (10 単位)

- 「自由選択枠」として開講している科目はありません。
- 卒業要件単位一覧に記載されている (1)～(7) の科目から、合計 10 単位を修得してください。
- 成績証明書には、「自由選択枠」という表示はでませんので、KOAN の履修成績や成績証明書により、各自で自由選択枠に充当できる科目を確認してください。

例：

- (1) 基盤教養教育科目から 2 単位
- (5) 高度教養教育科目から 4 単位
- (6) 専門教育系科目から 4 単位
- 合計 10 単位

単位修得方法に関する補足説明

●高度教養教育科目

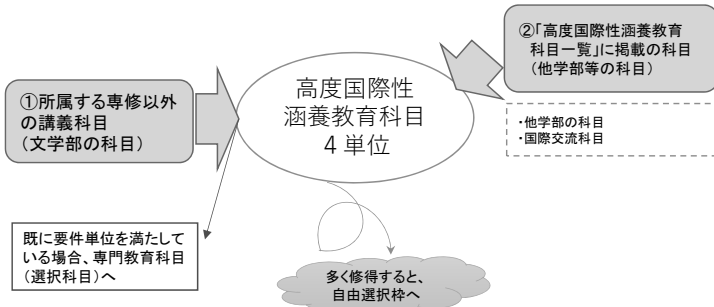


高度教養教育科目となるのは、主に左図の開講科目です。

これらの科目を、2年次 秋学期以降に履修することで、要件を満たすことができます。
該当科目は、「高度教養教育科目一覧」で確認してください。
(シラバスの検索機能、各開講部署のホームページ等でも確認できます。)

要件単位よりも多く修得した場合、自由選択枠の単位となります。

●高度国際性涵養教育科目



高度国際性涵養教育科目となるのは、主に左図の開講科目です。

これらの科目を、2年次 秋学期以降に履修することで、要件を満たすことができます。

文学部では、所属する専修以外の講義科目(ここで指す講義科目とは、科目の末尾に“講義”と記載されている科目)を、高度国際性涵養教育科目としています(左図①)。既に要件単位を修得している状態で新たに①の科目を修得した場合は、専門教育科目(選択科目)に充当されます。

他に、「高度国際性涵養教育科目一覧」に掲載の他学部等の科目(左図②)でも要件を満たすことができます。
該当科目は、「高度国際性涵養教育科目一覧」で確認してください。
(シラバスの検索機能、各開講部署のホームページ等でも確認できます。)

既に要件単位を修得している状態で新たに②の科目を修得した場合は、自由選択枠の単位となります。

なお、①と②を同じ学期に修得した場合、②を優先して高度国際性涵養教育科目の単位に充当します。

●自由選択枠としての単位

各科目区分に必要な単位数(要件単位)を満たしたうえで、全体で130単位を満たすまでの単位数を指します。(=10単位)
→「卒業要件単位一覧」に記載の(1)～(7)の単位で満たす必要があります。

- (1) 基礎教養教育科目の中で、6単位を超えて修得した単位(2単位まで)

(2) アドヴァンスト・セミナー(2単位まで)

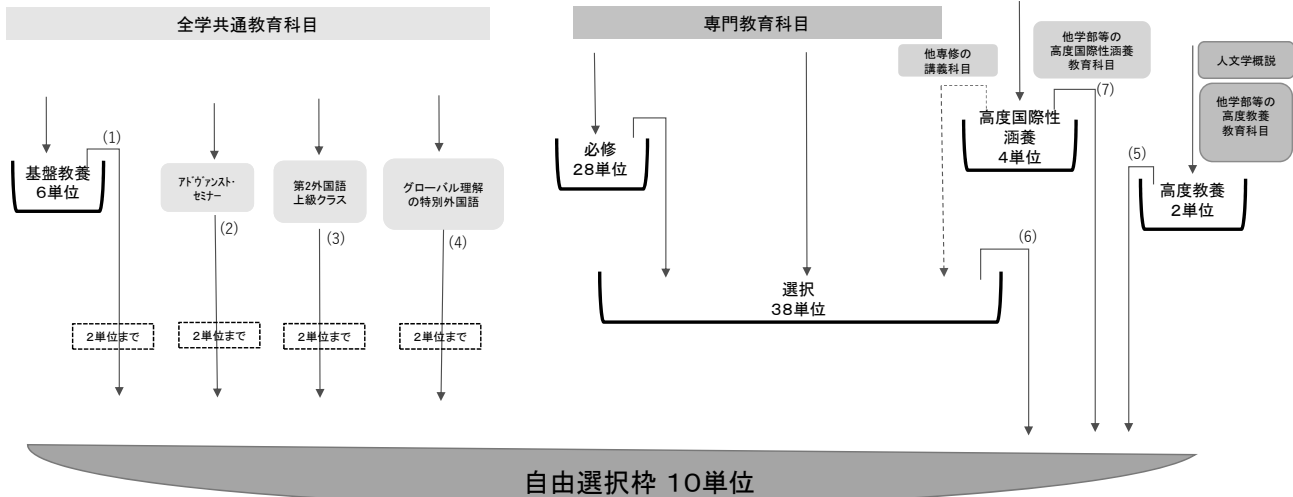
(3) マルチリンガル教育科目の第2外国語の上級クラスで修得した単位(2単位まで)

(4) グローバル理解の「特別外国語」(2単位まで)
- (5) 高度教養教育科目で、2単位を超えて修得した単位

(6) 専門教育科目の選択科目の中で、38単位を超えて修得した単位

(7) 他学部等の高度国際性涵養教育科目で、4単位を超えて修得した単位

▼要件単位よりも多く修得した単位の流れ



----> 文学部の高度国際性涵養教育科目(他専修の講義科目)について、高度国際性涵養教育科目の要件単位(4単位)を既に充足している場合は、専門教育科目(選択科目)の単位となります。
※上図に記載のない科目(「学問への扉」「情報教育科目」「健康・スポーツ科目」「第1外国語」など)の余剰単位を、自由選択枠の単位とすることはできません。

卒業要件単位一覧（学士入学者適用）

科目区分				卒業に必要な単位数		履修方法等		
高度教養教育科目				2		以下の科目から2単位修得 ①「人文学概説」 ②「高度教養教育科目一覧表」に掲載されている高度教養教育科目		
高度国際性涵養教育科目				2		以下の科目から2単位修得 ①所属する専修以外の講義科目（該当する科目は、開講科目一覧表で確認してください。） ②「高度国際性涵養教育科目一覧表」に掲載されている高度国際性涵養教育科目 *①について、2単位を超えて修得した場合は、専門教育系科目の選択科目の単位に充当されます。		
専門教育系科目	必修科目	専修の講義・演習		28	2	所属する専修の講義及び演習から修得。		★文学部開講の演習科目から20単位以上修得
		外国語科目				英米文学・英語学、ドイツ文学又はフランス文学専修に所属する学生は、外国語科目2単位を含まなければなりません。 なお、当該専修の外国語以外の外国語科目を修得してください。		
	選択科目		26	文学部共通概説・人文学概説を除く文学部授業科目の中から26単位以上修得。 なお、「専修の講義・演習」の卒業に必要な単位（28単位）を超えて修得した単位についても選択科目の単位となります。 また、選択科目については下記の「選択科目についての補足」のとおり選択科目として認められることがあります。 （注）必ず認められるわけではありません。				
	卒業論文		10	卒業論文の提出については、p. 32を参照してください。				
合 計				68				

専門教育系科目の選択科目についての補足					
在学中に、他の大学（専門職大学を含む）若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学で修得した単位は、24単位まで専門教育系科目の選択科目として認められることがあります。なお、必ず認められるわけではありませんので注意してください。					

卒業要件単位チェックシート（学士入学者適用）

科目区分				卒業に必要な 単位数		前年度までの 修得単位		今年度春～夏学期 までの修得単位		今年度秋～冬学期 までの修得単位		メモ
高度教養教育科目				2								
高度国際性涵養教育科目				2								
専門 教育 系 科目	必修 科目	専修の 講義・演習		28	20 (演習科目)							
		外国語科目				2						
	選 択 科 目		26									
	卒 業 論 文		10									
合 計				68								